



マクロの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- [VM 名のテンプレートのカスタマイズについて, 1 ページ](#)
- [VM のテンプレートとホスト名の変数について, 5 ページ](#)
- [アプリケーション コードについて, 6 ページ](#)
- [マクロのオーケストレーションについて, 6 ページ](#)

VM 名のテンプレートのカスタマイズについて

Cisco UCS Director のマクロ機能では、アプリケーションに用意されている変数を使用して VM 名と VM ホスト名をカスタマイズできます。システム ポリシーで変数を使用すると、VM 名および VM ホスト名は自動的に作成されます。

Cisco UCS Director では、VM プロビジョニング中に VM 名および VM ホスト名を自動的に作成することもできます。VM 名のテンプレートおよび VM ホスト名のテンプレートは、VMware システム ポリシーに基づいて使用できます。

VM 名のテンプレートの使用方法

ステップ 1 [ポリシー]>[サービスの提供] をクリックします。

ステップ 2 [VMwareシステムポリシー] タブを選択します。

ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。

ステップ 4 [ポリシーの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ポリシー名] フィールド	ポリシーの名前。 この名前は、カタログを定義する際に使用されます。

名前	説明
[ポリシーの説明] フィールド	ポリシーの説明。

ステップ 5 [VM名のテンプレート] の変数名を選択します。次のフィールドに入力します。

名前	説明
[VM名のテンプレート] フィールド	<p>VM 名。VM 名は、一連の変数名を使用して自動的に作成できます。各変数は <code>\${VARIABLE}</code> のように囲む必要があります。</p> <p>VM 名のテンプレートの変数を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CLOUD_NAME : 導入するクラウドの名前。 • GROUP_NAME : VM グループの名前。 • CATALOG_NAME : カタログ項目またはエントリの名前。 • USER : ユーザ ID。 • SR_ID : サービス リクエスト ID。 • COMMENTS : コメント。 • PROFILE_NAME : ポリシーの名前。 • LOCATION : クラウドの作成時に指定されたロケーションの名前。 • UNIQUE_ID : 名前を一意にするためのランダム ID。 • APPCODE : カタログの作成時に指定される値であるアプリケーション コード。 • COST_CENTER : コスト センター グループまたはお客様の組織。グループまたはお客様の組織を作成する際に指定します。

ステップ 6 [VM名のテンプレート] のオプション機能を選択します。

ステップ 7 次のフィールドに入力します。

名前	説明
# フィールド	<p>インデックス文字。VM 名のテンプレートの末尾にインデックス文字を追加して、VM 名に対する一意のインデックス番号を作成することができます。これは複数指定できます。たとえば、VM 名のテンプレートが <code>vm-\${GROUP_NAME}##</code> である場合、このポリシーを使用してプロビジョニングされる最初の VM の VM 名は <code>vm-ABCD01</code> となります。グループ名が <code>ABCD</code> で <code>01</code> が <code>##</code> に相当します。</p> <p>(注) これはオプションのフィールドです。 [VM 名のテンプレート] フィールドで示された変数に # 文字を追加して、番号を生成できます。</p>
[エンドユーザVM名またはVMプレフィクス]チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、サービス リクエスト（導入設定）の作成時に VM サフィックス名を追加するオプションが有効になります。
[導入後に電源をオンにします。]チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、そのポリシーを使用して導入されたすべての VM の電源が自動的にオンになります。

ステップ 8 [ホスト名のテンプレート] の変数名を選択します。

ステップ 9 次のフィールドに入力します。

ステップ 10 [ホスト名のテンプレート] のオプション機能を選択します。

ステップ 11 次のフィールドに入力します。

名前	説明
# フィールド	<p>インデックス文字。VM 名のテンプレートの末尾にインデックス文字を追加して、VM 名に対する一意のインデックス番号を作成することができます。これは複数指定できます。たとえば、VM 名のテンプレートが <code>vm-\${GROUP_NAME}##</code> である場合、このポリシーを使用してプロビジョニングされる最初の VM の VM 名は <code>vm-ABCD01</code> となります。グループ名が <code>ABCD</code> で <code>01</code> が <code>##</code> に相当します。</p> <p>(注) これはオプションのフィールドです。[ホスト名のテンプレート] フィールドで示された変数に # 文字を追加して、番号を生成できます。</p>
[DNS ドメイン] フィールド	VM 用に使用する IP ドメイン。

名前	説明
[タイムゾーン] ドロップダウン リスト	利用可能なタイムゾーンのリストから選択します。
[DNSサフィックスリスト] フィールド	DNS ルックアップ用に設定する DNS サフィックス。複数のサフィックスを指定する場合はカンマで区切ります。
[DNSサーバリスト] フィールド	DNS サーバの IP アドレス。サーバが複数ある場合はカンマで区切ります。
[VMイメージのタイプ] ドロップダウン リスト	VM にインストールされているイメージの OS を選択します。[WindowsおよびLinux] または [Linuxのみ] を選択します。Windows イメージの場合は、さらに詳細情報を指定する必要があります。
[製品ID] フィールド	Windows の製品 ID またはライセンス キー。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。 製品 ID またはライセンス キーは、このフィールドまたは OS ライセンス プールで入力できます。OS ライセンス プールのキーが、ここで入力したキーよりも優先されます。OS ライセンスの詳細については、次の項を参照してください。
[ライセンス所有者名] フィールド	VM に設定する組織名。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[組織] フィールド	[シート別] または [サーバ別] を選択します。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ライセンスモード] ドロップダウン リスト	ライセンス ユーザ数または接続数。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ライセンスユーザ数] フィールド	WINS サーバの IP アドレス。値が複数ある場合はカンマで区切ります。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[WINSサーバ] リスト	WINS サーバの IP アドレス。値が複数ある場合はカンマで区切ります。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。

名前	説明
[自動ログイン] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、自動ログインが有効になります。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[自動ログイン回数] フィールド	自動ログインを実行する回数。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[管理者パスワード] フィールド	管理者アカウントのパスワード。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ドメインまたはワークグループ] ドロップダウンリスト	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ドメイン ワークグループ これらのオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ワークグループ] フィールド	ワークグループの名前。このオプションは、[ワークグループ] が選択された場合にのみ表示されます。
[ドメイン] フィールド	Windows ドメインの名前。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ドメインユーザ名] フィールド	Windows ドメイン管理者のユーザ名。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。
[ドメインパスワード] フィールド	Windows ドメイン管理者のパスワード。このオプションは Windows VM の場合にのみ使用できます。

VM のテンプレートとホスト名の変数について

VM のテンプレートとホスト名は、一連の変数名を使用して自動的に生成できます。各変数は `${VARIABLE}` のように囲む必要があります。次の変数名を使用できます。

名前	説明
<code>\${CLOUD_NAME}</code>	VM プロビジョニングに使用するクラウドの名前。

名前	説明
<code>\${GROUP_NAME}</code>	VM が属するグループの名前。
<code>\${CATALOG_NAME}</code>	VM プロビジョニングに使用するカタログ項目の名前。
<code>\${USER}</code>	リクエストするユーザの ID。
<code>\${SR_ID}</code>	サービス リクエスト ID。
<code>\${COMMENTS}</code>	リクエストするユーザが指定するコメント。
<code>\${COST_CENTER}</code>	グループまたはお客様の組織に関連付けるコストセンター。グループとお客様の組織のいずれかを作成する際に指定します。
<code>\${APPCODE}</code>	カタログの作成時に指定するアプリケーションコード。

アプリケーションコードについて

カタログの作成時に指定されるアプリケーションコードは、VM 名に使用できます。カタログのアプリケーションコードを指定し、変数として `${APPCODE}` を追加すると、その値を VMware システム ポリシーの中で呼び出すことができます。

通常、APPCODE は、DB, WS, SQL などのタイプのアプリケーションに使用できます。VM 名またはホスト名に含まれるアプリケーションタイプを参照することで、VM 内のアプリケーションのタイプを簡単に識別できます。たとえば、`vm-${GROUP_NAME}-${APPCODE}-##` の場合、このシステム ポリシーでプロビジョニングされる最初の VM の名前は `vm-Demo-DB-01`（Demo はグループ名、DB はカタログに指定されたアプリケーションコード、01 は ## に相当します）となり、その次の VM 名は `vm-Demo-DB-02` となります。

たとえば、`vm-${GROUP_NAME}##` の場合、このポリシーでプロビジョニングされる最初の VM の名前は `vm-HR01`（グループ名が HR で 01 が ## に相当します）になります。同じグループとカタログに対して新しい VM がプロビジョニングされる場合、その VM には `vm-HR02` という名前が付けられます。

マクロのオーケストレーションについて

Cisco UCS Director ワークフローの作成中には、ワークフロータスクの入力にマクロを使用できます。ワークフローのランタイム実行中、関連付けられたアクションを実行する前に、オーケストレータによって各マクロの値が置き換えられます。

通常、Cisco UCS Director の各ワークフローには、次のコンポーネントが含まれます。

- 管理者が定義する、ワークフローの入力値
- 事前に定義された一連のタスク ライブラリから、管理者がドラッグ アンド ドロップするタスク。各タスクには、ID、一連の入力、および出力が含まれます。

各タスクの入力にマクロが使用されることがあります。ワークフローレベルの入力または前のタスクの出力は、後続のタスクでマクロとして使用できます。たとえば、Enter Disk Size と Max Snapshots というラベルが付けられた 2 つの入力値を持つワークフローが存在し、このワークフローには、task1 と task2 という ID の 2 つのタスクがあるとします。task1 または task2 への、自由形式の入力値では、これらの 2 つの値をマクロとして使用できます。

- \${Enter Disk Size}
- \${Max Snapshots}

各変数名は、その入力値に関連付けられたラベルと正確に同じです。task2 には、task1 の出力を使用することも可能です。task1 に OUTPUT_VOLUME_NAME および OUTPUT_VOLUME_SIZE という 2 つの出力変数がある場合、task2 では \${task1.OUTPUT_VOLUME_NAME} および \${task1.OUTPUT_VOLUME_SIZE} という構文を使用して、両方の出力変数を参照できます。各入力フィールドで複数のマクロを参照することが可能です。

- SR_ID:現在のサービス リクエストの ID
- PARENT_SR_ID : 現在のサービス リクエストの親 SR ID（該当する場合）

VM に関連して実行されるワークフローの場合は、次の追加の変数をマクロで使用できます。

名前	説明
\${VM_NAME}	VM の名前。
\${VM_IPADDRESS}	VM の IP アドレス。
\${VM_STATE}	VM の状態（オンまたはオフ）。
\${VM_STATE_DETAILS}	VM の状態（電源オンまたは電源オフ）。
\${VM_PARENT}	VM をホスティングしている ESX サーバまたはホスト ノード。
\${VM_CLOUD}	VM プロビジョニングに使用するクラウドの名前。
\${VM_HOSTNAME}	VM サーバのホスト名。
\${VM_GROUP_NAME}	VM が属するグループの名前。
\${VM_GROUP_ID}	VM が属するグループ ID。

名前	説明
<code>\${VM_CATALOG_ID}</code>	VM に使用されるカタログ ID。
<code>\${VM_ID}</code>	選択された VM の VM ID。
<code>\${VM_SR_ID}</code>	VM のサービス リクエスト ID。
<code>\${VM_COMMENTS}</code>	リクエストするユーザが指定するコメント。
<code>\${VM_VDC_NAME}</code>	vDC の名前。
<code>\${VM_VDC_ID}</code>	vDC ID。
<code>\${VM_TYPE}</code>	VM のタイプ。
<code>\${VM_SCHED_TERM}</code>	スケジュール済みの VM の終了時刻。